問 少子化対応の学校検討会立ち上げを

答 議論していく場は必要だと考える

田中麻乃 議員

【少子化に対応した子供にとって望ましい教育環境のあり方】

問 人口減少・少子高齢化に伴い厳しい財政状況が懸念される中、長期的な維持充実のため学校のあり方について今から考える必要がある。小中学校校舎の老朽化が進んでいるが、財政的な学校運営の考えは。

答 南小の南校舎、北小の北校舎は改修または建替えの時期が迫っているが、それには多額な財政負担を伴うため先延ばしをし、小規模改修でトータルコストを抑制すべきと考える。両小学校の統合に関する議論は避けて通れない課題。

問 田舎移住希望の子育て世代では自然保育が注目されている。信州やまほいく認定制度を利用して県外にPRしたらどうか。

答 やまほいく認定制度の申請手続きは進めている。認定を受ければこちらのホームページや広報にも載ると思うので、そういったツールも使い発信していきたい。

問 村が考える観光地域づくりとは

答 住んでよし訪れてよしが基本理念

【多様性のある観光地域づくり】

問 観光資源とは生活資源であり、「地域の光を観（しめ）し、それを観る」という意味での観光の理解を生活レベルから考え、村全体で共有していくことが必要である。住んでよし訪れてよしの観光地域づくりための行政の役割は。

答 観光地経営計画の策定といった村全体が進むべき方向を示すこと、また観光振興において民間主導の活性化のため、民間事業者の施設投資の後押しを図る「地域未来投資促進法」に基づく地域経済けん引事業や、「生産性向上特別措置法案」に則った中小企業向け投資に係る支援なども重要な役割だと考える。

問 観光資源が村民生活に活きることも大事である。小谷村は来シーズンから小学生とその保護者のリフト券を無料にする予定。村民が観光資源に魅力を感じることが観光地域づくりにもなると考えるが、行政の考えは。

答 地元でもっとスキーができる環境をつくるためにも検討したい。

問 誰にでも優しい観光地として多様な旅行者を受け入れていくことは重要である。ユニバーサルデザイン[注1]推進の村の考え、村民周知、取り組みは。

答 村としても積極的に取り組むべきだと考えている。ユニバーサルコンシェルジュ[注2]の育成事業を信州大学との産学連携で取り組む予定。文化・食生活・宗教・LGBT[注3]など多様性を受け入れる広い心を持ちたいと考えている。

注1：障害の有無や年齢、性別などに関わらず、多様な人が利用しやすいように都市や生活環境を整備する考え方
注2：右記を案内する役割
注3：性的少数者を限定的に指す言葉

老朽化の進んだ北小校舎。小規模改修でまかなえるのか。
校舎統合も含めて学校のあり方を議論していく必要がある。